

六月七日

九時三〇分北海道十勝の後藤さん来室。十勝体験ツアーをオーガナイズしてみようという事になった。フィールド・カフェ+ヘレンケラー記念塔+ネパールのソバ屋さん+北の屋台+モール温泉の組み合わせで一泊二日というもの。七月十七、十八日に行う。後藤さんはいつ会っても明るく声もでかくて気持ちがいい。

が、しかしヘレンケラー記念塔の宿泊施設はすぐにも建てたいとさいそくされてしまった。

今朝、菜園に上ったら、ゆりの花が咲いていた。大輪の鬼ユリが沢山花を咲かせ、屋上は又一段と風趣が増した。誰かに自慢したいのだが、誰も相手にしてくれないだろう。

昨夜石山研ウェブサイト、オープン・テック・ハウス及び世田谷村市場を予定通り、一新。まだ成熟したものではないが、とり敢えずは良いだろう。やらないよりはマシだ。明日から名古屋、福岡、北九州市巡行の旅である。

十五時杉並渡辺邸。今日引越しなのだけれど、工事は残っている。住みながら手を入れさせていただく事に。石山研究室院生総動員で仕上げクリーニングしていた。なんとかこのプロジェクト、すなわち素人でも家を作る事はできるのだ。は実践することが出来た。渡辺夫妻と元気な三人の子供たちに感謝したい。

屋上のデッキも気持ちよく出来ていた。やっぱりここへはハシゴじゃなくて上りたいね。

六月八日 土

朝七時起床。おふくろが朝食を用意してくれて、腹ごしらえ。九時東京駅。九時半過ぎの新幹線で名古屋へ。名古屋から名鉄に乗り換えて本星崎へ。歩いて5分程の浜島さんの家へ。予想していたよりもずっと立派な民家だった。角にバラの花が咲いていて、二棟の築百年、七〇年の民家である。全部壊して新築してしまう案を用意していたのだが、これは誤りであるのを直観する。理屈ではない、本能的にこれは壊してはいけないというよりも、旧屋の増改築で考えた方が面白い仕事になることを確信した。良い民家だった。全く背のびしたところがなく、自然に生活そのものが家になっている風格があった。浜島さんのお祖父さんが大工仕事の心得があつて、半農の仕事のかたわら作り上げたものらしい。

浜島さんの御両親も立派な大庶民で飾り気もなく、正直な方々であつた。大都市のサラリーマンにはないタイプだ。地下から三階まで一気に上る階段は年寄りには危なそうだが、見事なものでおまけに途中にチョツとしたからくり仕掛けがあつて一階から床を引き出して、階段をシャットアウトできるようにしているのだった。毛綱モン太と二人で実測した金沢市の妙立寺、忍者寺を思い出したりもした。天気も良く風が吹き抜けて実に居心地の良い空間なのだ。等身大の生活の工夫が集積したとても言うおつか。お母さんは仕切りに不便で、しかも大雨になると地下は浸水してしまうのだと、取り壊し新築を望むのだが、しばし待て、チョツと努力して保存改築案を考えてみるからと申し述べた。考えてみれば設計者が自分で考えた新築の案を、これは良くないから止めましょうと力説しているのだから、我ながらおかしい。しかし壊さずに作る案を作ってみる価値はあるのだ。

十四時半、再プレゼンテーションを約し辞す。院生に実測させ

てみる必要があるだろう。笠寺駅より名古屋に戻り、十五時半過ののぞみで博多へ。只今、十七時過岡山である。十九時博多着。春吉橋のまめ丹へ。ここはいつ来ても美味。それにおばちゃんがいかに良い。ネクサス・ステイブ・ホール棟泊。

六月九日 日曜日

六時起床。昨夜は窓を開けて眠ったら寒いくらいだった。今日は宮本邸地鎮祭。

昨日の浜島さんの家の計画はやりようによっては私の仕事の中では独特なものになるだろう。松崎町の倉の保存改修の仕事がこれが続いて初めて生きてくる。いつも偶然のようにして始まる仕事に一つの道筋を発見できたような気分になる時がささやかな喜びを得られてマア自己満足の極みである。いつかチャンスがあれば石山棟の改造をやってみたい。レム・コールハウス棟のうねる屋根越しに石山棟を眺めるたびに頑張らなくちゃいけないと思ってしまうのがここの良さだ。ここで事務所を開設したのもその由縁である。

八時四〇分ゴンドー君待ち合わせ。九時過藤崎現場。位置出し。縄張り。十時半頃終了。宮本一家も現場に来て、位置確認。近くで食事の後十四時地鎮祭。石山ゴンドー安藤野村列席。野村を宮本さんとの打合わせに残し引き上げる。四時過カシイ。休み。ゴンドー君と七時過長浜通り第八協進丸での会食を約す。暑さでチヨット疲れた。

六月十日

朝カシイよりJRで小倉へ。住宅供給公社へあいさつ。磯崎さんの図書館、西日本展示場その他北九州の仕事を見学。門司へ。

正后サッポロビール工場跡地見学。門司港のアルド・ロッシ設計のホテル、レストランで野村、ゴンドー両氏と食事。福岡空港十六時過の便で東京へ。十九時八重洲富士屋ホテルロビーで台湾中原大学黄先生と会う。設計演習Gへの学生参加の意向を頂く。インターネット上の演習が可能になればこんなに楽な事はない。のだが、やってみなくては解らないのだ、こういう事は。案ずるよりも生むが易し。

三日間の巡行の旅は終わった。疲れた。

六月十一日

朝学部講義。中国のコンペに参加する事にした。二五日に北京へ行く予定。

昨日私のゼミ生の青木からメールが入っていて、私のメモを読み雄大と連絡をとりたいとの事。ヘーあいつ学院のヨット部だったのか。懐かしい奴である。加藤しんじが社内ですごい新人だと。笑わせるネエ。あんな馬鹿がネエ。世間の質はだいが急落しているな。